

看護実践・キャリア 支援センター通信

Vol.31

2025年
7月

目次

	頁		頁
・看護学生へのキャリアデザインプログラム(1・4年生)	1	・看護学生へのキャリアデザインプログラム(2年生)	3
・附属病院看護職への教育(新人・現任)	1	・看護学生へのキャリアデザインプログラム(3年生)	4
・附属病院看護職への「看護研究特論」聴講	2	〈看護師特定行為支援センター・新設〉	4
・国際看護論 講演	2	今後のセンター事業	4
・災害医療のキホンのキ	3		

4月 看護基礎教育・看護実践教育事業

看護学生へのキャリアデザインプログラム(1・4年生)



奈良県看護協会 春木邦恵会長



奈良医大附属病院 石飛悦子看護部長

看護実践・キャリア支援センターでは、看護学科生に看護の専門職としてのキャリアを考えるプログラムを行っています。

4月3日、今年度も就職活動を本格的に行う4年生を対象に、「奈良県での就職に関する説明」と「社会人としての基礎」の講演を行い、奈良県看護協会の春木邦恵会長に奈良県の医療体制や看護職の就職状況についてお話をいただきました。

4月7日には入学時オリエンテーションで、石飛悦子看護部長が学生時代からコロナ禍を経て現在に至るまでの様々な看護の現場での体験から、そこで働く人の思いと看護の魅力についてお話をされました。

学生の間は自分の働く姿がなかなか想像しにくいものです。看護職の資格を取得し、どんな人生にしていくのか。学生の皆さんには卒業までに様々な話を聞き、体験して、就職時の困難を乗り越えていってほしいと思います。

4月～ 看護基礎教育・看護実践教育事業

附属病院看護職への教育(新人・現任)

看護実践・キャリア支援センターでは、附属病院に勤務する看護職に対して研修を行い、組織全体でのスキルアップを図っています。

臨床で必要となる手技だけでなく、自らの看護観を見つめ直す看護のリフレクションや看護倫理、メンタルヘルスケアや指導者・メンバーとしてのあり方など、その内容は看護の様々な分野・場面に渡っています。

受講者や部署の意見を参考にしながら現場看護師の後押しとなるような研修を心掛けています。



新人:側注法

新人:電子カルテ研修

新人:輸血バッグ穿刺

現任:看護のリフレクション

4月 看護研究事業 附属病院看護職への「看護研究特論」聴講

看護職の研究のサポートの一環として、附属病院勤務の看護師の希望者に、今年度も医学部看護学科の「看護研究特論」(R7.4.10～30 全8回)の聴講を実施し、延べ77人という予想を上回る受講がありました。講義は新しい畝傍山キャンパスで行われ、看護職が参加しても十分な台数の情報端末が教室にあり、今年度は「文献検索」の講義も受講することができました。



新キャンパスのパソコン端末が100台ある教室を使用

自主的に受講しているためか、研究に向けて高い意欲が感じられる参加者が多く、今後の共同研究に進む可能性を感じました。



5月 チェンマイ大学派遣事業 国際看護論 講演



上月 葵さん



福山久美子さん

奈良県立医科大学とチェンマイ大学は学術協定を結んでいます。この協定に基づき、双方の附属病院の看護職を隔年で派遣し、学び合っています。

5月12日、看護学科の「国際看護論」において、2024年度にこの交流事業に参加した2名の本学附属病院看護師が、看護学科の学生たちに2週間の研修での体験を語りました。

上月葵さんは現在、特定行為研修を受講しています。タイで同じような資格であるナースプラクティショナーに関心を持ち、参加しました。日本より権限を持ち、医者と協力しながら高度な判断や業務を担当していることに驚いたそうです。

福山久美子さんは集中治療における終末期医療と意思決定支援に興味を持ち、参加しました。チェンマイ大学附属病院ではスピリチュアルケアという患者の思いや日常を尊重するケアを大切にしています。傾聴を大切にし、全ての患者に事前意思を確認していたり、病室にお坊さんが入れたりときめ細やかなサポートがあります。

チェンマイ大学附属病院は看護師が2000人を超え、勤務状況や患者の状態をシステム管理するなど近代的な病院です。別の視点を知ることで、自分たちの強み・弱みが見えて来ます。

今年度は看護学科からもチェンマイ大学へ派遣されることもあり、学生達は現地の様子を興味深そうに聞いていました。



ナースプラクティショナーの活躍を知る(上月さん)



きめ細やかなチェンマイの意思決定方法(福山さん)

6月 地域貢献事業 「災害医療のキホンのキ」



6月22日に、DMATや日赤救護班、災害支援ナースとして海外派遣の経験がある附属病院高度救命救急センターの南田哲平さんを講師に災害医療の研修を実施し、院内から14名、院外から25名(県内12医療機関・5訪問看護事業所 所属)の参加がありました。

研修では、災害医療について、トランシーバーの使用方法、情報整理等、講師 南田 哲平さん 災害時に必要となる様々な知識を学びました。特に30人近い模擬被災者がいるトリアージのシミュレーションは圧巻で、大人数を目の前にして対応する優先順位や判定の考え方などについて、シミュレーションを繰り返す中で理解を深めていきました。また、今年度は災害時の1人1人の行動を想定しておくアクションカードの作成も行いました。



「アクションカード」を作る



30秒以内に判定するトリアージ

災害が起こった時、医療者は同時に大人数の被災者に対応することになります。今回、シミュレーションでその「大人数」を体験できたことで、受講者に災害時の現実について改めて考えることができたようです。

アンケートにも、災害時にどのように対応するか見直したい等、各施設での事前準備を意識した意見が多く見られました。

7月 看護基礎教育・看護実践教育事業 看護学生へのキャリアデザインプログラム(2年生対象)

7月9日に、2年生を対象に中村由美教育担当看護副部長から「看護専門職としてのキャリア」について、若手看護師から「看護師としての思い」や「実習に向けての心構え」についての話を聞く、キャリアデザインプログラムを行いました。この事業では、臨地実習前の学生が附属病院の先輩看護師のお話を聞くことで、改めて看護職としての将来像をイメージできる機会にしています。

看護副部長からは附属病院の看護師のラダー制度や様々な看護職の働き方を病棟であったお話を交えながら説明されました。奈良医大看護学科出身の4年目看護師のお二人はこれから実習に行く学生に向け、実習の時の患者とのトラブルや入職後の行き詰まり等、マイナスに思えることがいい経験として自分を成長させるという話をされました。

実習を目前にした学生達も、実習が看護職として患者と接する入口であると気づき、リアルな将来像をお二人に感じたようで、真剣な表情で話を聞いていました。



中村由美看護副部長「キャリアについて」



生駒 佳奈英さん



北飯 麻友さん

附属病院勤務の先輩の学生時代から今に続く体験談を聞く

7月 看護基礎教育・看護実践教育事業 看護学生へのキャリアデザインプログラム(3年生対象)



中濱 絢さん
(がん相談支援センター)



小川 哲平さん
(看護師特定行為支援センター)



存在で癒せる人に(中濱さん)



人としての成長が大切(小川さん)

7月11日、看護学科の3年生を対象にした看護学生へのキャリアデザインプログラムとして、附属病院で活躍する看護師2名が、それぞれのキャリアについて話をしました。

1人目の中濱絢さんはがん看護専門看護師です。学生実習で感じた無力感、患者の「命の価値」への懊悩等から患者のために自分にできる看護を模索し続け、その思いに近づくために資格を取得しました。学ぶ過程で見えるものが増える面白さを知ったそうです。2人目の小川哲平さんはクリティカルケア認定看護師・特定看護師です。受験や仕事で何度もつまずきながらも、できることを増やしていく過程で資格を取得したそうです。与えられた場所が希望でなくても努力する内に、楽しさが見えてきて、現在、看護師特定行為支援センターの師長としてスタッフと課題に取り組んでいます。臨床で活躍している大先輩達が、決して順風満帆な人生ではなく、「自分には何の力もないのか」「辞めたい」と悩んだことがあることに、驚いたという感想が学生たちから多く聞かれました。それでも「今はやりがい・楽しさがある」というお二人の話を聞いて、明確な将来ビジョンがあってもなくても、悩んだり失敗したりしても、努力を続ける先に光が見えてくるという前向きな思いになったようです。

看護師特定行為支援センター・新設

看護実践・キャリア支援センターでは、平成27年から看護師特定行為研修の業務を行ってまいりましたが、今年度からその研修担当部門が分離し、附属病院での特定行為研修修了生の業務を統括するリソースナースセンターと合併して、新部署「看護師特定行為支援センター」となりました。この新部署の設置によって看護師特定行為に関する募集・研修中・研修後を管轄する部門が一体化されました。今後は修了後に臨床でどう研修を活かすかに向けた院内での特定看護師の動きの円滑化が期待されています。

今後は、奈良県立医科大学の「看護師特定行為研修」に関わるお問い合わせは「看護実践・キャリア支援センター」ではなく「看護師特定行為支援センター(内線2185)」にお願いします。



今後のセンター事業

☆地域貢献事業

「ケアする方もケアされる方も楽になる認知症看護」 日時:令和7年9月6日(土) 10:00~16:00

講師:奈良県立医科大学附属病院 認知症看護認定看護師 池内勝継・松田恵美

「対話型セルフケア支援」 日時:令和7年11月15日(土) 13:00~16:00

講師:日本赤十字看護大学 教授 本庄恵子

「AYA世代がん患者への支援について」日時:令和7年12月13日(土) 時間未定

講師:奈良県立医科大学附属病院 がん看護専門看護師 中濱 絢・中村由美



地域貢献事業案内
QRコード

発行元: 公立大学法人奈良県立医科大学 看護実践・キャリア支援センター (Tel.0744-22-3051 内線 3233)